

平成 27 年度「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」

震災を財産にするために～学校と地域の「つながり」を未来へ～

取組事業名

野田村学校支援地域本部事業

- ・野田小応援隊「ひかり」(野田小学校)
- ・野田中学校学校支援地域本部

岩手県野田村

学校名

- 野田村立野田小学校
- 野田村立野田中学校

※該当する内容に○

活動内容	学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
		○	○	○	○	○
	放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	学童クラブとの連携	その他
	学校と地域の協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
		○	○	○	○	○
家庭教育支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他	
地域課題に応じた学習	高齢者支援	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他	

取組概要

【野田村学校支援地域本部事業】

- ・平成22年7月に「野田小学校区学校支援地域本部」として小学校のみスタート。平成24年度から野田中学校も加え、「野田村学校支援地域本部」として、小中学校に各1名コーディネーターを配置。
- ・東日本大震災津波被害により大きな被害を受けたが、地域は「学校は村の光」、学校は「野田村を照らす太陽」という意識で活動している。
- ・ボランティア活動を4つのカテゴリー（「図書」「環境整備」「授業支援」「安全指導」）に分け組織化。地域住民と児童・生徒が直接ふれあう機会を多く設定している。
- ・年2回の野田村地域教育協議会で有識者からの外部評価を導入。学校に過度な負担がかからないよう、行政、社会福祉協議会、各種団体と協力体制を構築している。



草とりボランティアのみなさんと

事業成果

- 体験活動の充実や、授業におけるきめ細やかな指導実践の向上はもちろん、地域住民との交流が増えることによって「コミュニケーション能力の向上」や「規範意識の醸成」につながり、特定の教育活動にとどまらず全般的に効果があがっている。また、震災以降、児童・生徒が「地域のために何ができるか」を考える機会が増え、活動の必要性が以前より高まっている。
- 「ボランティア登録者数」「活動したボランティアの延べ人数」「活動実施回数」は年々増加している(表1)。「学校や子どもたちのためにできることをやりたい」「前よりも学校が身近になった」「子や孫が学校にいても気軽に来られる」といった声が多く、これまで培った技術を活用できる場であり、住民同士で楽しめる社交の場としても広く認知され始めている。
- 平成27年度「優れた『地域による学校支援活動』」として文部科学大臣表彰を受賞。



	実施回数(回)	延べ人数(人)	登録者数(人)
H22	21	102	25
H23	19	119	42
H24	52	359	44
H25	49	452	56
H26	69	666	69
H27	62	631	78
合計	272	2329	78

表1 野田小応援隊「ひかり」 実施回数等の推移(平成28年3月)

課題と今後の取組

- 新たな取組でボランティアを増やすということではなく、学校への支援を通して子どもも地域も笑顔にしたいとのねらいで活動してきている。これから人と人との「つながり」を大切に活動を展開し、村民一人ひとりの「心の復興」につなげていきたい。